

令和 6 年度 調布市立第二小学校 学校評価報告書（学校長 安藤 力也）

学校の教育目標
「かがやけ二小の子」 ○かかんがえる子 ○がんばる子 ◎やさしい子（重点） ○けんこうな子
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像
☆目指す学校像：『子どもたちの笑顔，地域・保護者の笑顔，職員の笑顔があふれる学校』 1：個性が尊重され，一人一人が大切にされる学校 2：楽しく学び，確かな学力が身に付く学校 3：健康と安全を大切にする学校 4：教職員が専門性を高め合い，共に学び合う学校 5：保護者・地域等と共に歩む学校 ☆目指す児童像：全教育活動におけるキーワード 「自他尊重：respect for oneself and others」⇒自分の「よさ」に気付き，自分を大切にする⇒周りの人の「よさ」を認め，大切に思う ☆目指す教員像 ◎「よさ」～find goodness～：「自他尊重」 ◎「すべては子どもたちの笑顔と Wellbeing のために」～all for smile and wellbeing of children～ ◎「Team 二小」～one for all, all for one～

調布市立学校における共通した領域 ＜短期的な経営目標＞						
	1 豊かな心(徳)		2 確かな学力(知)		3 健やかな体(体)	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	① 学校経営方針の柱として「自他尊重の精神の涵養」を位置付け、校長自ら全教育活動を通じて、自分や他者を大切にすることに関連して、教員、地域・保護者、児童に発信することで一層の涵養を目指す。また、「本物との出会い」を大切にしたい体験的な活動の一層の充実を図る。校外学習や外部人材の活用によりスポーツや障害者理解教育、伝統文化等に触れ、生きた知識や豊かな情操を育むことを目指す。	B	① 各教科・領域等においては、主体的な学び手として子どもが中心となり学び合う授業づくりへの転換、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。また、学力調査の結果を分析・考察するとともに、校内研究と関連付けて、他者と関わり合いながら主体的・協働的に学ぶ児童の育成をめざして研鑽を深める。	B	① 日々の体育授業や体育的活動の充実を図ると共に、児童の運動の日常化を目指した取組の充実を図り、体力向上を目指す。マラソン、水泳、なわとび、鉄棒等の体育学習で活用するカードの充実を図り、休み時間や家庭でも日常的に運動に親しめるように学校・学年だより等を通じて家庭に啓発する。	B
	② 「二小スタンダード」・「二小の約束」に基づき全教職員が同じ視点で、学習規律・生活規律のある指導にあたる。特に「あいさつ」の励行については生活指導上の重点目標として位置づけ、地域・保護者・学校が一体となって意識をより高めることができるような新たな取組の創出について検討する。	B	② 思考場面を大切にし、自分の考えを明確にもたせて、ペアや小グループ及び全体での話し合い活動を段階的に取り入れ、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えと比較したりする対話的な学習を推進する。	B	② 校庭の芝生を有効活用した運動や体力テストの結果を踏まえた運動教具の開発や環境整備を推進したり、休み時間の工程や体育館使用方法を工夫したりすることで、運動に親しむ機会の創出を図り、体力の向上につなげる。	C
	③ 異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで、課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図るなどして意思決定の能力の伸長を図るとともに集団の一員としての自覚をうながし、自主的・実践的な態度の育成を図る。また、行事ごとにそのめあてを明確化し達成感を味わうことで、自己の生き方について考えを深めると共に自己実現を図ろうとする態度を養う。	A	③ 習熟度別指導や講師による指導を活用し、学習の基盤となる資質・能力を明確にし、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。また、各学年や児童の学習状況や学習内容等に応じて教科担任制を一部導入し学習指導の充実を図る。	B	③ 児童の安全を最優先に考え、学校行事を中心とした教育課程の見直しを図るとともに、児童が安心して学校生活を送ることができるような保健・衛生面、生活の仕方について検討し、児童の指導に生かす。また、保健指導を定期的に行い、健康に対する理解を深め、健康的な生活習慣を身に付けさせる。	B
	④ 人権尊重の精神を基盤とし、児童、教師、保護者、地域が一体となっていじめや体罰を許さない学校風土を醸成する。自分の「よさ」や他者の「よさ」、互いの違いを認め合い、自分も他の人も大切にすること児童の育成を図る人権教育を推進する。	B	④ 児童1人1台タブレット端末をはじめとするICT機器を効果的に活用した授業を積極的に行い、児童の思考力・表現力、情報活用能力、メディアリテラシーを育む授業の推進を図る。	A	④ 食に関する教育計画を基に食に関する指導の充実を図る。また、給食配食前、配食時には毎日、管理職、学級担任、栄養士、調理師による除去食等の複数点検を行い、食物アレルギー事故ゼロを維持する。併せて喫食を伴う教育活動実施の際のチェックリストや保護者向け配布文書の活用を徹底することで校内アレルギー事故防止に努める。	A
	⑤ 異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで、発達段階の違いなど、多様な個性を認め寛容に関わり合う気持ちの育成や互いに思いやる心・学び合う心の育成を図る。	A	⑤ 全教員が学期ごとに相互授業公開をする。授業後には、1 学期は基礎的な学力向上の基盤となる学級経営、2 学期には学習指導要領の視点に立った授業改善に対する指導助言を行う。3 学期には全教員が一単位時間または単元の中で児童の主体的・協働的な学びの視点に立った授業づくりが行えるようにする。	B		

	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
	① 学校評価アンケート「豊かな心の育成」に関する項目では、 ・保護者「学校は、体験的な学びの充実やたてわり活動、ふれあい月間の子もたちの主体的な活動等を通して、豊かな心の育成に努めている。」肯定的評価 A+B 回答：97%、 「学校は、運動会や学習発表会等の行事の充実を図り、子どもたちが目標をもって生活し、成長につながるように取り組んでいる。」肯定的評価 A+B 回答：99%。 ・児童「運動会や学習発表会等,行事では、めあてをもって取り組んでいる。」：肯定的評価 A+B 回答：89%、「友達や下級生にやさしく接している。」：肯定的評価 A+B 回答：95%、「係や当番,委員会活動に積極的に取り組んでいる。」：肯定的評価 A+B 回答：90%。 本校では、特色ある教育活動の一つとして異学年交流「たてわり班活動」を通して、多様な個性を認め合い、寛容に関わる気持ちや思いやりの心の育成を図ってきた。また、生きた知識や豊かな情操を育むために「本物との出会い」を大切に考え、外部人材の活用や交流学習等の体験的な活動の充実を図ってきた。また、キャリア・パスポート等を活用し、子どもたちが学期や行事ごとに活動の目標を明確にもち、その達成に向けて努力を積み重ねるプロセスを大切にしながら教育活動を進めている。行事を通して達成感を味わうことで自己の生き方を考え、深めるとともに自己実現を図ろうとする態度を養うことができるよう、これからも、運動会や学習発表会、移動教室をはじめとする学校行事が子どもたちの成長につながるよう大切にしてい	A	① 学校評価アンケート「学習理解」に関する項目では、 ・保護者「学校は、子どもによく分かる授業の工夫を行っている。」肯定的評価 A+B 回答：88%。 ・児童「学校の授業がよくわかる。」：肯定的評価 A+B 回答：95%。 ・全国学力・学習状況調査結果においては国語科・算数科ともに全国・東京都の平均正答率を上回った。 子どもたちにとって、学校生活における大部分の時間を授業として過ごしおり、子どもたちが日々の学習や授業の中で「わかった」「できた」と実感することは、学ぶ楽しさを味わうこと、ひいては学校生活が楽しいと感じることにつながると考える。そのために、私たち教員は、これからも学習指導要領が目指す『主体的、対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善、効果的な ICT 機器の利活用、基礎・基本的な学習内容の定着を図るための個に応じた指導の工夫等、子どもたちによく分かる授業づくりに向けて努めていく。	B	① 学校評価アンケート「体力向上」に関する項目では、 ・保護者「学校は、体育授業の充実や各種の体育学習,校庭芝生の利活用等、子どもの体力向上に努めている。」肯定的評価 A+B 回答：91%。 ・児童「すすんで体を動かしたり,運動をしたりしている。」：肯定的評価 A+B 回答：80%。 昨年度まで3年間にわたって進めてきた校内研究（研究主題：「自分も友達も大切にし、主体的・協働的な学びを実現していく体育学習」）により、児童が運動の特性に触れる楽しさや身体を動かす心地よさを味わうことができるよう、体育授業の充実を図ってきた。一方で東京都統一体力テスト調査結果では、昨年度同様、ほとんどの学年で男女ともに体力合計点が全国・東京都の平均値を下回っている現状が続いている。今後も本校の特色である校庭芝生を有効に活かしながら、体育授業や体育的活動の充実を図り、児童が運動の楽しさを味わい、主体的に運動に取り組めるようにするとともに、家庭や地域と連携した運動の日常化につなげていけるよう工夫していく。	B
	② 学校評価アンケート「規範意識」「基本的な生活習慣の確立」「あいさつ励行」に関する項目では、 ・保護者「学校は、子どもが「時間を守る」「目と心で話を聴く」等、基本的な生活習慣を身に付けられるように適切な指導を行っている。」「子どもは、すすんであいさつをしている。」肯定的評価 A+B 回答：77%。 ・児童「学校のきまりを守って生活している。」：肯定的評価 A+B 回答：90%、「先生や友達に、自分からすすんであいさつをしている。」：肯定的評価 A+B 回答：85%。 あいさつ励行については、学校での取組の成果を学校生活以外の場でも発揮することができるよう、新たな取組や地域・家庭と連携した取組の創出等について検討しながら、今後もあいさつの励行について重点的に取り組んでいく。	B	② 学校評価アンケート「主体的・協働的な学びの実現に向けた授業改善」に関する項目では、 ・保護者「学校は、ICT 機器の活用や子ども同士の学び合いを推進するなど、子どもの主体的な学びの実現に向けた授業づくりを進めている。」肯定的評価 A+B 回答：91%。 ・児童「学習ではタブレット端末を使い、自分が知りたいと思うことを学んでいる」：肯定的評価 A+B 回答：86%、「授業中,自分の考えや友だちの考えをすすんで伝え合っている。」：肯定的評価 A+B 回答：84%。 本校では今年度より「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るために、「自分の『問い』」をもち、対話を通して学ぶ児童」を研究主題に据えて校内研究を進めている。これからも、ICT 機器の効果的な活用、協働的な学びの推進を図りながら、多様な考えや価値観を認め合い、主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成に向けて、さらなる授業改善に努めていく。	B	② 学校評価アンケート「健康教育」にかかわる項目では、 ・保護者「学校は、保健・給食その他の活動を通して、健康づくり・健康教育に努力している。」肯定的評価 A+B 回答：95%、 ・児童「健康や安全に気を付けて生活している。」：肯定的評価 A+B 回答：87%。 新型コロナウイルスが五類に移行したものの、季節を問わず、スポット的に感染症が流行する状況がある。保健指導や日常生活指導においては、これからも子どもたちの健康と安全を最優先に考えながら教育活動を進めるとともに、子どもたちが自らの健康や安全に関心をもち、維持に努めることができるよう指導を進めていく。また、給食配食前、配食時には毎日、管理職、学級担任、栄養士による除去食等の複数点検を行うとともに、喫食を伴う教育活動も含め、食物アレルギー事故ゼロを維持する。	B
学校関係者評価	・異年齢との関わりが見られ、縦割り活動について肯定的な意見も見られる。特に一人っ子世帯にとってはこのような学校での機会は貴重であると思う。 ・縦割り活動では、上級生と交流できること、ゲームをして学年を超えて遊べることが保護者から評価されているので、こどもたちがさまざまな子と楽しい時間を過ごすためにも、ぜひとも定期的に実施して欲しい。 ・学校評価アンケートの学習規律に関する回答が児童と保護者のいずれも90%に近かったことから、		・児童のアンケートでは、授業の理解度が高い結果となっている。しかし、分かりづらいと感じている児童も少数いると思うので、そのような子への対応も常に考える必要がある。 ・児童の授業に対する理解度を高く保つことができれば自ずと平均値も比例して高い結果が得られると考える。 ・アンケートでは、児童自身が楽しく主体的に授業を学んでいるという回答が非常に高く、保護者からも児童の学習理解に関して肯定的な回答が多か		・日常生活の中にできるだけ身体を動かす機会を増やすことがポイントだと思う。 ・保護者からは児童の体力向上に関しての指導について肯定的な意見が91%だったが、児童自身のすすんで運動しているかという項目の回答では肯定的な意見が80%であった。先生方は体力学習に努められているように感じるが、一定数は運動が苦手で進んで体を動かせない子がいると思うので、運動が苦手な子でも簡単にできるストレッチや体操を教えることを取り入れるのも大切だと	

	先生方の規律を定着させる指導は良い結果を残せていると考えられる。引き続き、基本的な規律を守ることを身につけられるような指導を行ってほしい。 ・挨拶についての評価は8割弱であるが、学校では挨拶をしてくれる児童が多く見られるように思うし、意見の中にも肯定的なものが複数あることは評価できる。家庭生活においても挨拶の励行を呼びかけていくことも必要と考える。 ・児童がすすんであいさつをしているかという項目で保護者からの肯定的評価が77%とやや低めではあるが、保護者からは恥ずかしがり屋だった児童が頑張っあいさつをしているとの意見もあったので、あいさつをすること自体の指導は適切に行われていると考えられる。しかし、相手からあいさつされないあいさつを返せない児童がいると思うので、どうすれば自分から積極的にあいさつをするようになるか考える余地がある。	ったので、先生方は児童が楽しく学べるような工夫が出来ていると感じた。このような授業の楽しさが子どもたちが毎日元気に登校することにもつながると思うので、引き続き工夫をしていってほしい。 ・児童が楽しく主体的に学んでいるかに関して肯定的な意見が多かったので、児童は意欲をもって学習ができていようである。テストが返却されたときの直しを引き続き重視していってほしい。 また、確認テストを毎授業作るのは大変なので、授業の終わりに授業に関する簡単なクイズを用意するの面白いのではと思った。 ・保護者から「職員室に行けないのと、先生方が忙しそうだから子どもたちが質問しに行きにくい」との意見があったので、児童からの質問を受け付けるスペース及び時間の確保を検討するとよいと思う。 ・「すすんで読書をしている」という項目では児童の肯定的評価がやや低めであったので改善の余地があると感じた。 ・読書では読書週間や図書館の活用を今後も続けていくことが大切だと感じた。また、授業中で10分だけでも児童に読書を作ってみる、毎日が難しくても数日、数週間に一回は活字に触れることが大切だという事を日々伝えてみるのもよいと思った。	思う。また、そのような方法で日々身体を動かすことの重要性を教えられたらよいと思う。 ・給食に関しては保護者から「グループで食べられるようになって児童が喜んでいる」という意見があったので、食事を楽しい時間として過ごすことが大切であるように感じた。また、保護者からは「細かい骨がある魚は骨が喉に刺さってしまうから出すのをやめて欲しい」という意見があった。とはいえ魚を提供しないというのはよくないと思うので、調理方法の見直しや、骨があるという注意の呼びかけ、骨の摂り方を教えるなどの指導に取り組んでみてはどうかと思った。 ・「ヒューマンエラーは必ず起こりうる」という考えのもと、職員間で常に声をかけあいながら連携してアレルギー事故防止に努めることが大切だと思う。			
学校の特色を生かした領域　＜短期的な経営目標＞						
	4 安全・安心な学校づくりの推進		5 特別支援教育の推進		6 保護者・地域との連携	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	① 毎週1回、生活保健夕会を開催し、共通理解を図るとともに、週ごとに適時性のある安全指導を行えるようにする。毎月の安全点検と合わせ安全指導を毎月実施する。	A	① 就学支援シート、個別指導計画、個別支援計画の効果的活用を図り、校内委員会を基軸として校内通級教室、都・市SC、保護者、外部機関と連携を深め、一人ひとりのニーズに応じた支援を行う。	B	① 本年度から導入される学校運営協議会による意見や評価を積極的に取り入れ、学校運営の改善を図るとともに、取組状況について積極的に情報発信を行う。	B
	② 全職員が学校生活及び施設設備における安全確保と危険回避に向けた改善意識を常に高くもち、役割分担を明確にしながら児童の安全を守る。休み時間等教員が児童と共に遊びに参加し、児童の安全確保に努める。	B	② 週2回行われる職員打ち合わせを活用し、全教職員が情報共有を行い、特別に支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに、よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたることができるようにする。	A	② 地域人材や地域の教育材を生かした第二小ならではの教育活動を推進する。地域学校協働本部が中心となり、既存の取組を大切にしながら、地域住民、保護者の協力体制を再整備する。また、地域関連行事及び次年度迎える開校80周年に向けては、これまで同様、地域関係者の協力を得ながら、地域・保護者、そして子どもたちにとって思い出深い取組となるよう、学校が連携し実施・準備を進めていく。	A
	③ 全教育活動を通じて児童の道徳性を養うとともに、いじめの撲滅のため、いじめ対策委員会を随時開催し、未然防止と解決に努める。また、調布警察署や調布警察スクールサポーターと連携し情報収集を行い、問題行動の未然防止の取組を行う。	B			③ 学校ホームページは毎日更新することで、リアルタイムに教育活動の様子を伝えていくようにする。また、地域・保護者には学校安全・安心情報配信システム「すぐー」や学校ホームページの活用・閲覧について機会を捉えて呼びかけていくとともに、必要な情報等についての意見交換をしながら内容の充実を図る。	B
	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
	① 学校評価アンケート「安全指導」に関する項目では、 保護者「学校は、交通安全や不審者対応・災害時対応等、安全指導の充実に努めている。」肯定的評価 A+B 回答：90%。 児童「健康や安全に気を付けて生活している。」：肯定的評価 A+B 回答：87%。 毎週1回、安全指導夕会を行い、職員が共通認識をもち、子どもたちが安全・安心な学校生活を送れるよう安全指導の徹底を継続している。また、調布警察署やと連携した不審者侵入対応研修会や対応訓練の実施、階段転落防止ネットの新設、校庭芝生や樹木の維持管理、登下校時間帯以外の門扉閉の徹底、施設管理補助員のトランシーバー常時携帯、「すぐー」	B	① 校内委員会を月1回の定例開催に加えて、適時性をもって必要に応じた情報共有の機会を作ってきた。特別支援教育コーディネーターが中心となって外部機関と連携した支援の在り方や改善策について検討することで、方針を共有しながら指導・支援することにつながった。巡回心理士、SC、昨年度から他行に先駆けて配置されたSSWとは巡回及び勤務日毎に情報共有や指導や支援のために有用となるフィードバックを受け、指導・支援に生かせるよう努めてきた。これからもさらに連携を深めていく。	B	① 学校評価アンケート「地域連携」に関する項目では、 保護者「学校は、地域と連携し、地域とともに教育活動を推進している。」肯定的評価 A+B 回答：84%。 体験的な学びの推進に向けては、地域の皆様にお力添えいただき実施している活動は多くある。また、健全育成推進第二地区委員会をはじめとする地域関係団体の皆様のお力添えにより、第二小の子どもたちのために地域行事や様々な体験活動を実施していただいており、大変感謝している。一方で、D回答（わからない）が14%であったことを受け、今後は活動の様子などをより周知していけるような工夫が必要と考える。なお、令和7年度	B

	を活用した児童の安全にかかわる迅速な情報提供等，安全性を高めるための対応や施設改善を図っている。引き続き，児童の安心・安全を最優先に考えながら教育活動，対応や施設の改善を進めていく。				中の第二小学校地区協議会発足に向けた準備が進んでおり，第二小学校区内における地域の結びつきや新たな絆づくりがより深まっていくことと期待している。開校 80 周年を迎える記念すべき令和 7 年度，今後とも「地域とともに子どもを育てる」教育の推進に向けて，地域関係の皆様にはお力添えをお願いしたい。	
	② 学校評価アンケート「学校生活」に関する項目では，保護者「子どもは，友だちと楽しく学校生活を送っている。」肯定的評価 A+B 回答：93％。 児童「学校では,楽しく生活している。」：肯定的評価 A+B 回答：94％。 多くの子どもたちが学校生活を楽しんでいると感じていることは喜ばしいことであるが，C+D 回答：6％の児童がいることを見過ごすことなく，すべての子どもたちにとって学校生活が安全・安心で楽しく感じられるよう，見守っていく。 多くの仲間，友だちとのかかわりの中で，学校生活が楽しく，安心できる居場所であること，そして毎日笑顔で過ごすことができることは私たちの変わらぬ願いである。次年度，記念すべき開校80周年を迎える「心のふるさと＝第二小学校」での生活が子どもたちにとってかけがえのない宝物となるよう，今後も改善に向けて努力を重ねていく。	A	② 週2回の職員打ち合わせを活用し，全教職員が情報共有を行い，個に応じた支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに，よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたることができるように進めてきた。多様化する課題に対して，より適切に対応できるよう特別支援教育にかかわる専門性の向上のために努めていく。	B	② 学校評価アンケート「情報発信」に関する項目では，保護者「学校は，授業参観や学校行事，学校だよりや学級だより，ホームページ，すぐー等を通じて，学校や子どもの様子等を分かりやすく伝えている機会を設けている。」肯定的評価 A+B 回答：88％。 授業公開や学校行事については，実施方法を工夫し，保護者の皆様にご理解とご協力をいただきながら，保護者・地域の皆様に子どもたちの学校生活の様子をご覧いただく機会を計画してきた。また，学校ホームページの更新に向けて，主に「学校生活の様子」について更新・配信したり，すぐーを活用した迅速な情報提供に努めたりしてきた。次年度は 1 学期中の授業公開日の設定，配布文書の一部ペーパーレス化について検討し準備を進めている。今後も子どもたちの学びの成果や生き生きと活躍する姿をご覧いただけるよう機会や情報提供について工夫しながら進めていく。	B
学校関係者評価	・アンケートの結果から先生方は安全指導，規範意識，学校生活の指導によく努められていると感じる。また，場面や状況ごとに指導の仕方を工夫し児童の成長を促せるように努めることが大切だと感じた。これらの指導について保護者からは先生方に対する感謝の声が多かったので，引き続き取り組んでいたきたい。 ・目標通りの結果ではあったが，維持向上のためには，更に取り組めることは無いかを模索して行くことが大切。 ・ほとんどの項目で児童の振り返りの結果は85％以上の肯定的評価を得られていたのでとても良い結果であると感じる。		・専門機関と互いに情報を共有し，指導に生かすとともに，担任がクラス全体の指導にも力を注げるようなフォロー体制を作って行けると良い。 ・なにか問題を抱えている児童について，その子に合った適切な指導方法について考えていく必要があると感じた。 ・担任の先生はひとりの生徒だけに付きっきりで指導をする時間は多く割けないと思うので，このような時は事前の対応策を考えるあるいは支援員の活用をすべきだと思う。また，人に言えていない悩みを持つ児童もいると思うので，カウンセラーが一人ずつ悩みを聞く時間も大切であると思う。		・学校運営協議会の存在意義や役割などを委員と改めて確認共有し，次年度以降の活動に生かせると良い。 ・保護者は以前と比べて地域とのつながりを十分には感じられなくなっているのではないか。また，地域連携については，保護者には見えにくいように思う。より見えやすい工夫が必要と考える。 ・コロナ禍以降，地域運動会・クリーン作戦等が無くなったため，地域の方と二小とがつながる機会が減っている， ・地域連携に関しては，保護者からの肯定的評価が78％とやや低めであったが，「まちたんけん」など授業内の活動は子どもの視野が広がる良い活動だと思うので引き続き重視していただきたい。また学校で地域が行なうイベント等の宣伝を行うこと，地域の大人に児童を見守る意識をもたせることも大切であると思う。 ・情報発信については，現代では様々なツールがあるので，より効果的な手段を検討されると良い。また，地域の方からの客観的な意見を定期的に聞くことも大切だと思う。 ・情報発信の項目では保護者からの肯定的回答がある一方で，「紙媒体より ICT を利用して連絡して欲しい」，「お弁当や工作道具が必要な場合は早めに連絡して欲しい」といった意見があったので，確実に保護者に伝えられるように，紙媒体，ICT，いずれの活用も検討の余地があると思った。	

人材育成・組織運営	
自己評価	○「Team 二小」～one for all, all for one～ 教職員がもつ「よさ」や「強み」を生かしてそれぞれの役割を果たしながら，共通理解を図り，「子どもたちの未来に触れている責任と誇り～二小 PRIDE～」を胸に，「Team 二小」としてベクトルを合わせ，全教職員一丸となり教育活動を進めてきた。 ○主幹教諭・主任教諭を中心に日常的・意図的な OJT をそれぞれ推進しながら，職員相互に研鑽を図ってきた。主任教諭には，学校運営にかかわる明確な役割を示すことで組織貢献意欲を高めることにつなげている。 ○若手教員には教育実習担当や分掌主任等，経験年数や強みに応じた役割を与えたり，新規採用教員への指導・助言の機会を設定したりすることで，組織貢献意欲や人材育成に対する意識の向上につなげられるよう努めてきた。
学校関係者評価	・教員不足が深刻に思う。管理職をはじめ，教職員が疲弊しないように働き方の工夫，改善がされることを願う。 ・アンケート結果を見ていると全体的に肯定的な意見が多く，また保護者からも感謝の声が多数寄せられていたので先生方の日々の研鑽による素晴らしい結果だと思います。教職は日々忙しく，仕事のやり方を模索し続けることも多く苦労が絶えない職だとは思うが，先生方の研鑽の成果は日々感じている。また，大勢の児童の教育を行う上で教職員の協力は必要不可欠なので，教職員の間でもお互いをリスペクトして支え合えるように，また困ったときは相談し合えるような環境を作っていただきたい。

中期的な経営目標の達成状況
① 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と自ら学びに向かう児童の育成⇒「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るために、「自分の『問い』をもち、対話を通して学ぶ児童」を研究主題に据えて校内研究を進めてきた。これからも、ICT 機器の効果的な活用，協働的な学びの推進を図りながら，多様な考えや価値観を認め合い，主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成に向けて，さらなる授業改善に努めていく。また，令和8年度から本格導入される教科担任制実施に向けて，各学年における一部教科担任制・教科交換授業を実施し，すべての教員がすべての子どもたちを見守り育てていくことを推進する。 ② 自己肯定感をもち，粘り強く取組む児童の育成⇒子どもたち一人ひとりが明確な目標をもち，努力を積み重ねるプロセスを大切にしながら達成感を味わい，子どもたちが行事を通して成長することができるよう，引き続き一つ一つの行事を大切にしながら指導の工夫をしていく。 ③ 多様な価値観を認め合える児童の育成⇒本校の特色ある教育活動の一つである異学年交流「たてわり班活動」は，豊かな心を育てる取組として児童の姿にもその成果が表れている。その様子を授業公開で広く保護者に見ていただく機会を設定し，理解を深めていただく機会となった。今後も大切にしながら一層の充実を図りたい。 ④ 自ら健康な生活を送ることができる児童の育成⇒体育授業の充実を図ることで，児童が運動の特性に触れる楽しさや喜びを味わう授業づくりにつながり，その成果が表れてきている。一方で，体力調査結果からも本校児童の体力の現状には課題がある。今後も，本校の特色である校庭芝生を有効に生かしたり，地域・保護者とも連携を図ったりしながら，児童が主体的に運動に取り組むように工夫していくことで，運動に親しむ意欲の向上や運動の日常化につなげていく。 ⑤ 安全・安心な学校づくりの推進⇒職員が共通認識をもち，日々の生活では安心して学校生活を送れるよう安全指導を徹底するとともに，安全性を高めるための環境・施設改善を進めてきた。引き続き，児童の安心・安全を最優先に考えながら教育活動を進めるとともに，市教委と連携し施設改善に努めていく。 ⑥ 児童一人ひとりに応じたよりよい指導・支援のための特別支援教育の推進⇒調布市教育委員会が方針として示すように，一人一人を大切にする教育を推進していくためにも，多様化する課題により適切に組織敵対応できるように校内委員会を基軸とした組織的体制を整えていくとともに，教員の特別新教育に対する専門性をさらに高めることができるよう研鑽の機会を設定していく。 ⑦ 地域の教育材・教育力を生かした教育活動の充実と学校運営協議会制度導入に合わせた地域連携の一層の推進⇒今年度導入されたコミュニティスクール制度は委員の皆様のお力添えにより円滑なスタートが切れた。今後も学校運営に対する熟議を重ねながら，地域・保護者との連携を深め，ともに二小の子どもたちを育てていきたい。また，学校評価アンケートをはじめとする各種アンケート結果や各行事等・授業公開での感想等を通して，地域・保護者，そして子どもたちの思いや願いを受け止め，今後も改善に生かしていく。
次年度の重点課題
◇「豊かな心」を育むための全教育活動を通じた「自他尊重の精神の涵養」の一層の推進。 ◇異学年交流「たてわり班活動」の一層の充実と「あいさつの励行」の推進。 ◇校内研究と関連付けた主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と主体的・協働的に学び合う児童の育成と各学年における一部教科担任制・教科交換授業の実施。 ◇児童が主体的に運動に親しむための体育授業等の充実と保護者・地域と連携した運動の日常化の推進。 ◇安全・安心な学校づくりの推進の継続。 ◇個に応じた指導・支援の充実の継続。 ◇開校 80 周年を迎え，児童の愛校心や郷土愛の一層の醸成を図るとともに，「心のふるさと」第二小に関わるすべての方々にとって思い出深い一年となるよう，学校・地域・保護者とが連携し円滑な計画・準備の進行と実施をめざす。 ◇コミュニティスクール制度の一層の充実と令和 7 年度発足予定の第二小地区協議会をはじめとする地域・保護者との一層の連携の推進。